

# KSJO

agawa student jazz orchestra

バンドを指導してくれる人たちは

本当にカッコイイ人ばかり!!

あー!!

のススX♪

KSJOを知らないアタ、知っているけど入りづらいアタ、

とにかく入ってみよう!!!!

KSJOとは? ... SWJO (学校の先生とOBの社会人たちのJAZZ

無料です!!

バンド) が中心となってJAZZの指導をしてくれる

JAZZバンドです。初心者から経験者まで大歓迎、

KSJOに入るとは? **Fun**なところ!!

好きな音楽の世界が広がる!! 確実に音楽の姿が見える!!



クラシックはかいたと何かがクラシックの... とはなにか、スゴくとはなにか

分かる... けど、JAZZを知るとは? それか分かる!!

そして、うまい人の演奏がまける!!

年間は何回も本当にスゴいプレイヤーと一緒になれる

機会があるので楽器がうまくなります。

← 秋田女子 木田浩幸

楽器は何でもOK!!

たとえオケでもOK!!

4人バンドでもOK!!

JAZZしよう!!

JAZZを知ると視野が広がります。

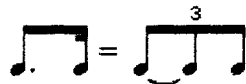
みんないっしょに!!  
Let's play with!

# Jazzプリント第2弾

①

今回のプリントはJazzの練習をより効率よくするために配るものです。前に配ったプリントもあわせて使ってください。文章が多いですが、よく読んでください。

まず、前回の復習から。最初は、八分音符について。

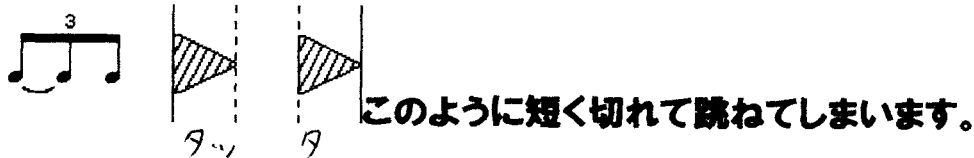


この2つが基本です。3連符の前の2つにテヌート、後ろ1つにテヌートアクセントをつけます。

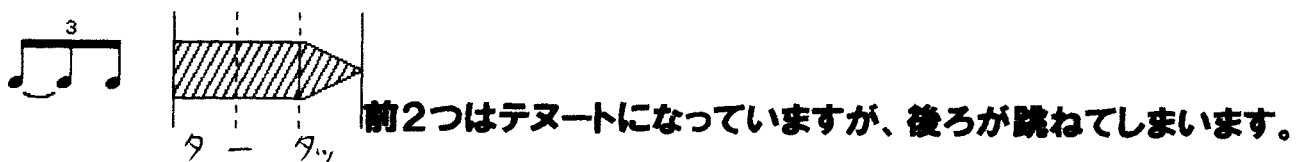
このとき、もっとも大切なのは音を出す**タイミング**です。正確に入るには、円のイメージで拍をとるといいです。そしてダウダダウダ・・というように3連符の2個目も数えると3個目のタイミングで入りやすくなります。(↑このように数えますが出す音はまっすぐです！)

上図で示したタイミング以外のところで音を出す、例えばクラシックで演奏するように均等になってしまったりすると、その音楽はswingしていないということになります。つまりは、カッコ悪いです。

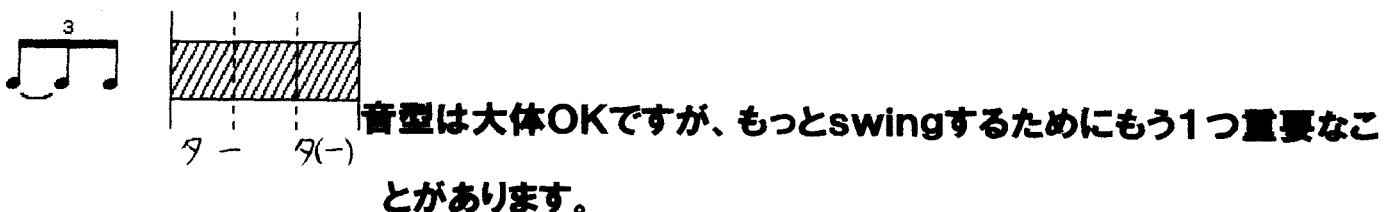
また、演奏する際の音型が、最初のうちは



もう少し進歩した状態では、



さらに進歩すると、



それは、**発音と口の形**です。→→次のページへ

Jazzでは、発音があまりはっきりしていると(tututu・・・みたいな)、せつかくの音楽の流れがぶつぶつになってしまうのでかっこ悪くなってしまいます。

そこで、Jazzではtuとかtaではなくもっと曖昧な発音をします。duとかでもよいのですが、**ハーフタンキング**というのが一番よいでしょう。といってもこれについてはよく分からないので、SWJOの方に聞くなり自分で調べるなりしてください。II部参考CDの1、2、9、10番トラックなどのうまいJazzがとても参考になるでしょう。

※発音については楽器を吹く前にしっかり歌うこと!

次に、口の形です。

クラシックでは口の形を変えるということはあまりしませんが(音域によってはありますが)、Jazzでは常に**激しく**口の形を変えます。


例えば、♪ のときは  と口の形を変えます。

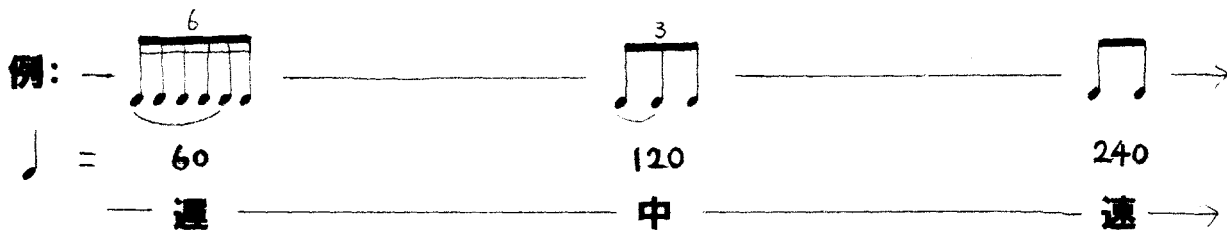
u-aと歌いながら吹くということです。

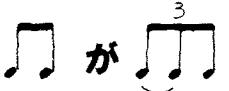
この練習をするときには、楽器をする前に実際に楽譜を歌ってみるといいでしょう。

(どーわどーわ・・・とか シャバでいばどーぼるば・・・とか。SWJOの方は歌ってくれます)

逆を言うと、これがうまく歌えないと楽器でやってもうまくいかないということです。恥ずかしかったら1人で家でやってくれたらいいのでとにかくやってみてください。

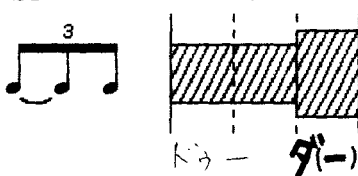
さて、プリントの最初に基本として  と書きましたが、実はこれはテンポによって変化します。



速いテンポになるほど八分音符はイーブン(均等)に近づいていきますが、このとき上で説明したようにu-aと口の形を変えると不思議なことに  のように聞こえます。

Disneyなどはテンポが速いので(今年はどれも速めですが)すごく効果が出ます。ほんまです。誰かにやってもらってください。

また、このとき3連符の後ろ1つのほうにより音価(エネルギー)を与えると(後ろは1/3で前より短いから)もっとswingします。これらを全部やると、音型が次のようになります。



これはだいぶんswingしています。これを目指そう!

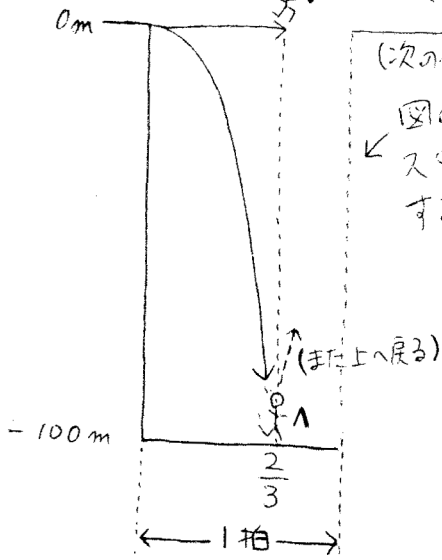


また、楽譜に  $\wedge$  や  $>$  のついた四分音符が出てきたりすることもあります。

♪ や ♪ というのはほとんど ♪ と同じなのですが、少しだけ違いがあります。

特に  $\wedge$  のときには ( $\wedge$  がなくてもする場合がありますが:ニューサウンズに多い)、

音が落ちる、いや、**音を落とす**というイメージで演奏します。どういうことかという、  
↑音を「飲みこむ」(C)感じて音を切るとヤリヤリいかもしれません。  
←そのまま行くのがスラッカー。そんな風にスピードはいいりません。



(次の拍)  
図のようなイメージで音を落とすのがアクセント。  
スラッカーと同じ時間でこれだけ移動するには  
すごくスピードが速いです。

一目瞭然、音を落とす  $\wedge$  の方がものすごく  
スピードが速いのが分かります(実際に手  
など何かを動かしてやってみるとよく実感で  
きます)。このイメージで を演奏すると、  
すごく **スピード感** のある演奏になり  
さらにかっこよくなることは間違いないです

この音型がよく分かるのは、Basie-Straight Aheadです。よく聞いてください。  
また他の曲にもこのような演奏の仕方をするとところはたくさんあるので探してみてください。  
分からないときはKSJOの人に聞いたら多少は答えてくれるでしょう。多分。

~  $\wedge$  の例~ (全てin C)

Basie-Straight Ahead..

① ~ ~ などたくさん。  
(1/4音符にも $\wedge$ がついてたりします。)

A列車で行こう..

冒頭メロディー ~ とか。

サウスランバート..

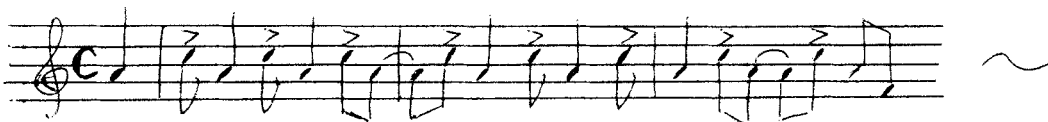
② ~ 他色々。

探せば 山 のように出てきます!

### ・ フレーズのとり方、音楽の流れ

Jazzを始めたばかりだと今まで延々と説明してきた音型やタンギングやら何やらに氣をとられて細かいことばかりを氣にして音楽全体の流れまで氣を配る余裕がないと思います。

例えば、こんな楽譜が渡されたとします。  
(Basie-Straight Aheadより、実音)



こんなややこしいリズムが出てきたらたいがい流れにまで氣が回らんでしょう。フレーズは大きく取ったほうが吹いている方も聞いている方も余裕で楽しめますし、スケールの大きな演奏ができるのですが、まだJazzに慣れきっていないと「この音符は何拍目に入って次は次の拍の裏で入って、長さは1拍の2/3で、次は1/3で・・・」などといつまでもやっていたのでは、吹いたときにぎこちなく聞いている方も疲れます。またこういうややこしいリズムが出てくる曲は曲中ややこしいことだらけなことが多いですから、早くJazzに慣れて、リズムや音型にばかり氣をとられんようになりましょう。慣れたら結構楽なもんです。

今までいろいろ書いてきたわけですが、ここに書いてあるようなJazzに関して氣をつけること、よく注意されることというのは我々でもKSJOでもSWJOでも世界最高レベルのプロのビッグバンド(秋吉敏子ジャズオーケストラみたいな)でも同じです。言ってみれば、ここに書いてあることが全てできたら世界トップレベルの演奏ができる(!?)ということです。まあそう簡単にできるもんじゃありませんが(当たり前じゃ!)。でも、少なくともそこらへんの高校のやるJazzよりも格段に上の演奏はできます。保証します。

またJazzをやっているとクラシックがうまくなります(!)。これはKSJOに入ったりしてJazzを続けていれば分かることです。

**定演まで日はないし、他の曲もあって大変やとは思うけど、Jazzはうちの定演の目玉です。必ず成功させましょう!**

何か分からないことがあったり、実際に口で説明してほしいとかあったりしたら、最寄のKSJO(中村、林、大岡、あけ、たま、黒川、まっし、中津、田中、加藤)まで。また、SWJOの方に聞くと効果抜群。聞くだけ聞いてやりましょう。

編集:加藤集平、参考:関元クリ氏のありがた〜いお言葉の数々  
このプリントに関する文句は全て加藤まで。